

#### 4. 内視鏡検査への臨床工学技士の新規参入を通じ

琉球大学医学部附属病院 光学医療診療部

臨床工学技士 ○西俣 友博

内視鏡技師 金城真由美、大城美智子

看護師 比嘉 紀晃、山城里美香

##### 【背景】

2016年9月に日本臨床工学技士会から内視鏡業務指針が公開され、全国的に内視鏡検査・治療領域における業務支援として、臨床工学技士が積極的に携わりはじめた。当院でも急激に進歩を続ける内視鏡検査・治療領域において、使用する医療機器の管理は高度化し、医師と看護師だけでは機器の管理が難しくなった。そこで、2017年11月から臨床工学技士が内視鏡業務へ参入し始めた。今回、参入したことで確立できた業務内容と、今後の課題についてまとめたので報告する。

##### 【方法】

日本臨床工学技士会内視鏡業務指針に基づいて、それまでは看護師や看護助手が行っていた以下の業務を臨床工学技士が行うこととした。①毎朝の内視鏡洗浄装置の始業前点検と消毒液の濃度チェック。②検査前の準備として使用するスコープの取り付け及び点検。③検査中の処置具を用いた処置介助や検査時の内視鏡関連機器のトラブル対応。④検査終了後の片づけや清拭。⑤洗浄終了後のスコープの取り上げと保管。以上の業務に加え、それまで行っていた内視鏡洗浄装置の消耗品の交換や、ベッドサイドモニターや高周波発生装置などの定期的な点検も継続して実施することとした。また、スコープについても新たに定期点検表を作成し、1年に1回定期点検を行うようにもした。

##### 【結果】

臨床工学技士の内視鏡業務への参入により、それまで看護師が行っていた医療機器管理業務の負担が軽減され、患者さんのケアにより一層専念できることになった。また、検査前の準備や検査後の片づけなどを臨床工学技士が行うことで、患者さんの入れ替えが円滑に進むようになり、業務時間の負担の軽減にもつながったと考えられる。

##### 【考察】

内視鏡業務において医師や看護師と情報を共有することは医療安全の向上にもつながる。そのために臨床工学技士も解剖学や生理学、内視鏡所見の理解を深める必要があると考えられる。また、現在は1名の臨床工学技士のみ対応しているため、病棟内対応などその他

の業務も併せて行っているため、毎日常駐することができていない。今後、新人教育なども行い、内視鏡業務に携わることのできる臨床工学技士を増やし、より看護師の負担軽減につなげ、安全に検査を実施できるようにしていかなければならない。

**【結語】**

当院で臨床工学技士が内視鏡業務に新規参入したことで、工学的な知識を活かしながら医療機器の管理をすることができ、患者さんに安全で質の高い医療が提供できると考えられる。

**【連絡先：〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地 TEL 098-895-3331】**